

東北森林管理局

指導普及課だより

第 63 号

発行日 平成 23 年 12 月 7 日

郵便番号 010-8550

電話番号 050-3160-6456

住 所 秋田市中通5丁目9-16

平成23年度の『准フォレスター等研修』を終えて

農林水産省は、平成21年12月25日に、今後10年間を目途に、路網の整備、森林施業の集約化及び必要な人材育成を軸として、効率的かつ安定的な森林経営の基盤づくりを進めるとともに、木材の安定供給と利用に必要な体制を構築し、我が国の森林・林業を早急に再生していくための指針として「森林・林業再生プラン」を作成・公表しました。

「森林・林業再生プラン」に基づき、平成23年度から都道府県や森林管理署に准フォレスターを配置し、市町村森林整備計画の策定や森林経営計画の認定等森林計画制度の運用を現場で担う市町村に技術面から支援を行っていくこととなりました。

このため、林野庁では、国有林野事業職員や都道府県職員について、新たな市町村森林整備計画や森林経営計画の作成等に関する准フォレスター研修を平成23年度から平成27年度まで実施し、毎年400人程度を准フォレスターとして育成することとしています。

また、同プランの実現に向けた路網整備の加速化に対応するため、平成23年度から国有林野事業職員、都道府県職員、市町村職員、測量・設計コンサルタント職員、建設事業体職員について、林業専用道技術者研修を実施し、育成することとしています。

平成23年度東北ブロックの准フォレスター研修は、盛岡署管内において、5日間ずつ2回（研修Ⅰ及び研修Ⅱ）、2グループ（Aグループ：24名、Bグループ：25名、計49名）を8月29日から11月1日までの期間に実施しました。

准フォレスター研修は、現場で活動するために必要な森林施業、路網、作業システムなどについての基本的な考え方、現場で合意形成を図り計画を実行していくための基本的な知識、そして何より地域の森林・林業を再生させようとする心構えをしっかりと身につけて頂くことを目的としています。



路網作設時に支障となる地質等について説明を受けている様子

また、講師から知識や情報を一方的に伝達するといった研修ではなく、研修生が、研修生同士あるいは講師との議論を通じながら、自分なりにそれぞれの地域における准フォレスターの活動の姿を考え、イメージをつかむことが出来るよう、ワークショップや現地での議論など対話型の内容を主体としています。

具体的には、市町村森林整備計画の作成手順に沿った講義・現地検討会及びグループ演習等に加えて、市町村森林整備計画の作成に当たって必要な予備知識や市町村森林整備計画の実行に当たって持っているべき知識について講義等が行われました。



准フォレスター研修の様子（座学）



林業専用道技術者研修
(写真上：座学、下：実習)

平成23年度東北ブロックの林業専用道技術者研修は、座学を盛岡市、現地実習を岩手北部署管内において、3日間ずつ4回（受講者数116名）を8月22日から11月2日までの期間に実施しました。

林業専用道技術者研修は、森林施業や作業システムを踏まえた林業専用道の適正な線形の選択や適切な施工管理の知識の習得と地域の特性を踏まえた創意工夫等の応用能力の向上を目的としています。

具体的には、林業専用道設計者・監督者は、一般土木技術に加え、林業用路網の作設に必要な知識・技術が求められていることから、「林業専用道作設指針」に基づき必要な技術と森林施業や作業システムについての基礎的な知識等の講義・現地実習等が行われました。

平成23年度の研修を終えて、准フォレスター研修の受講者には、准フォレスターとして地域の森林・林業像を確信を持って提示できるように、この研修で得た知識などを基に、現場での活動を実践し、研鑽することを期待しています。

また、林業専用道技術者研修の受講者には、これからの路網整備の趣旨を理解し、必要な技術・技能を身につけて頂くことを期待しています。

准フォレスター研修、林業専用道技術者研修ともに現地実習を4回実施したうち、2回雨天となりましたが、体調を崩す者や事故もなく、予定どおり無事終了することができました。

フォレスター等の育成は新しい取組であり、来年度に向けて研修における反省点も含め、課題や改善点を確認するとともに、受講者の意見等も参考にしながら研修内容や資料等について改善を図り、より実効ある研修を目指していきたいと考えています。

☆あきた保育園森林教室の開催

今年度から初の試みとして、10月19日、20日の両日、あきた保育園の年長組による森林教室を開催しました。

1日目は事前学習として保育園において出前授業を行い、カエデの種飛ばしや種の模型づくり、間伐材を使った積み木遊びなどに園児たちは夢中で取り組んでいました。

2日目は最高の小春日和の中、秋田県森林学習交流館「プラザクリプトン」において森林教室を開催。目を輝かせ、少し高揚した園児たちの顔に我々も力が入りました。交流館でインストラクターをされている職員の方々にもご協力をお願いし、一緒に周辺



葉や木の幹に顔をつけました！

フィールドビンゴでは虫やクモの巣等を見つけ「ビンゴ！」を連発、園児たちは何度も新しいカードで再挑戦していました。

また、学習の森や樹木園では「森の福笑い」というネイチャーゲームや樹木園での散策など、大いに楽しんで解散となりました。



想像力豊かな作品がたくさん
出来ました



森を散策しながらビンゴゲーム

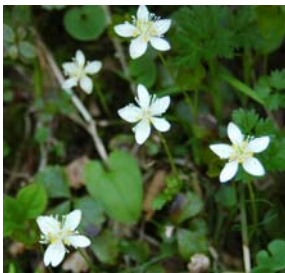
森林ふれあい推進事業『緑の山歩塾』を終えて

第1回「秋田駒ヶ岳に登ろう」

6月25日（土）秋田県仙北市で、初夏の秋田駒ヶ岳登山を開催。お天気も味方し、初夏の風も爽やかに沢山の応募の中から当選した28名が参加しました。

片倉展望台では、眼下に田沢湖、振り返ると乳頭山山頂、北西には森吉山を望み、参加者の皆さんはしばし景色に見入っていました。

阿弥陀池途中では、ヒナザクラやコメバツガザクラ等がお出迎え。避難小屋のある阿弥陀池周辺には、かなりの登山者があり人気の高さが窺えます。男女岳へは希望者のみ登頂、午後からはいよいよ大焼砂へ。阿弥陀池から横岳では、紫色のシラネアオイやイワカガミの淡紅色の花が我々の目を楽しませてくれ、大焼砂では今回目玉にしていたタカネスミレ群落が広がり、砂礫地に広がる黄色い小さな花に多くの参加者も夢中でシャッターを押していました。



ミツバオウレン

また、高山植物の女王コマクサも1つ2つと咲き始め、可憐な花々に感嘆の声が上がりました。

この時期の駒ヶ岳では黄色い花が鮮やかなミヤマキンバイや白い花が可愛いミツバオウレン、ベニバナイチゴ...等覚えきれないほど多くの花々に出会うことができます。参加者、スタッフ一同にとって素晴らしい一日となりました。



男女（おなめ）岳山頂手前からの景色



希少種のタカネスミレに出会うことができました

第2回「秋田の木を巡るツアー」

9月2日（金）秋田県能代市で開催、当日は台風12号の接近が心配されましたが、幸い雨も回避され、初めに仁鮎水沢スギ植物群落保護林内を散策。樹高日本一の天然秋田杉「きみまち杉」や、「恋文杉」、「モックン杉」、「田代杉」等樹高50m以上で名前を付けられた天然木が数多くあり、初めて訪れた参加者は深く感動されていました。

「風の松原」は入口付近しか見学できませんでしたが、能代海岸砂防林として、東西幅1km、南北総延長14km、面積は約760haあり、数ある松原の中で面積日本一の松原です。



参加者の皆さんが作成した鍋敷き

また、「風の松原」内には、いこいの広場、ランニングコース、サイクリングコースのほか木材チップを敷き詰めた散策路等が整備され、能代市民の憩いの場となっています。

続いて能代市「木の学校」では、木工機械を使って鍋敷きを作り、みなさん子どもに戻ったように夢中で取り組んでいました。「木の学校」では初めての方でも職員の方に指導してもらえるので、誰でも楽しく木工体験ができます。

最後に秋三銘木（有）を見学。普段見ることのない大径木の丸太や加工された厚板等、木の良さを再認識するとともに、皆さん強い関心を示していました。今回は体験型イベントとして志向を変えてみましたが、参加者から大変好評をいただきました。



「きみまち杉」

第3回「紅葉の鳥海山麓滝めぐり」

10月15日（土）山形県遊佐町で開催。今回の「緑の山歩塾」は、秋田県を南下し、お隣の山形県へ一ノ滝・二ノ滝溪谷の散策です。

この溪谷は、鳥海山への登山ルートの一つ「二ノ滝口コース」の一部であるため険しい登りもあり、散策というより登山のほうがしっくりきます。当日はあいにくの雨、それでも現地に着く頃には雨も弱まり、合田計画部長からの挨拶や準備体操の後に色とりどりの合羽を着て出発しました。



二ノ滝をバックに記念撮影



胴腹滝にて二つの滝の湧き水を飲み比べ

駐車場から約10分ほどで一ノ滝へ到着。滝壺近くに設置された展望台では、昨夜からの雨で水量が一段と増し、轟音と共に落ちる滝を水しぶきを浴びながら観賞。

さらにブナ林を溪谷沿いに進んで行くと、約20分ほどで落差20mの二ノ滝が突如姿を現します。巨岩の間を轟音を上げて落ちる大迫力の滝に感嘆の声が上がりました。

午後からは、鳥海山の伏流水が山腹から湧き出している胴腹滝へ。二つの滝から流れ出る湧き水を飲み比べたり、ペットボトルに詰めたり、思い思いの時間を過ごしていただきました。

今年度の「緑の山歩塾」はこれで終了。来年度も満足していただけるようなイベントを企画していきたいと思えます。

2011 国際森林年 森づくりフォーラム（中央地区）にて「森林の市」コーナーを設置



2011・国際森林年

東日本大震災の影響で5月の開催を見送っていた「森林（もり）の市」を、11月12日（土）、秋田県児童会館で開催された秋田県主催の森づくりフォーラムにおいて、森林の市コーナーを設置する形で開催いたしました。

当日は晴天に恵まれ暖かく、木工体験、木工品やキノコ等の販売、パネル展示、葉っぱを使ったしおり作り、仁別森林博物館ボランティア案内人によるクラフト体験等にたくさんのお客様が訪れてくれました。

ホール内では秋田市出身の登山家小松由佳氏や「あきた山の学校」主宰 藤原優太郎氏等によるトークショー、学校等による森づくり活動報告会が行われるなど盛大に執り行われました。



青山指導普及課長による開会の挨拶



葉っぱを使ったしおり作り



木工品（花台）製作も大盛況